

## 地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
  - (1) 一人ひとりの尊重
  - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
  - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
  - (4) 安心と安全を支える支援
  - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
  - (1) 居心地のよい環境づくり
  - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

### V. サービスの成果

#### ※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

#### ※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 医療法人 岡本会 グループホーム柳瀬

ユニット名 修

自己評価実施年月日 平成 20 年 9 月 29 日

記録者氏名 大川 多美

記録年月日 平成 20 年 10 月 30 日

## 自己評価票

	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を作成し、ホーム内の見やすい所に掲示している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼で理念を暗唱をし理解出来るよう話し合いをしている。スタッフ全員が実践出来るよう日々努力している。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用案内時の説明文書及びホームの見やすい所に明示し、又入居者や家族には分かりやすく説明をして同意を得ている。地域の方にはホームへ気安く立ち寄っていただき、掲示している理念を見てもらったり一緒に過ごす時間を設けて理解を深めている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝夕の挨拶はもとより散歩時は職員、入居者が一緒になって声をかけたり挨拶の交わりを心がけています。地域の方々からは新鮮な野菜をホームへ届けてくれる等交流が出来る。	
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一斉清掃や氏神様の掃除に参加している。ゴミ出しの日には所定場所の掃除を積極的に行ったり、散歩途中にゴミ袋を持ってゴミ拾いを行ったりし地域から喜んでもらい、地域活動にもわずかながら貢献出来ている。	○  夏、秋の神祭の掃除は地域の方と共に続けていく。又、散歩時の清掃活動に取り組んでいく。

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	地域の民生委員さん、児童委員さんとの連携 をとり、独居老人の実態を把握し、急病の時 などの応援が出来るよう心がけている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をスタッフで話し合い作成しながら 外部評価を実施する意義を理解した。積極的 に改善にむけ積極的に向け取り組み日々努力 している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	スタッフには会議の報告を行い、ご意見を いただいた内容についてはよく話し合いサー ビス向上につながるよう努めている。最近では よくやっていると推進委員さんよりお褒めを 頂き、よりいっそうの励みになっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	町の企画である文化祭に入居者の作品を出品 する等機会をみつけては連携をとり、ご意見 を頂いたりしてサービス向上につながる様努 めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	理解は不十分な点もあり、社会福祉協議会 の方から話を聞いたり資料を頂き勉強をして いる。	○	研修会への参加や担当の方かたの話を聞く機 会を設ける。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	虐待については研修も行き、ミーティングを して話しあっている。	○	研修会への参加、ホーム内での勉強会を繰り 返し行き、防止に取り組むよう努める。

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書にて説明を行い、理解、納得を図っているが理解が得られないと感じた時は繰り返し説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんと話をする機会を日常的に多くもち気軽に不満や苦情を訴えてもらえるように努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月通信を郵送したり、ホーム内へ写真を掲示して暮らしぶりをお知らせしている。健康状態は必要に応じて随時連絡している。金銭管理は管理者2名で行い、家族には支出の説明を行い確認をしてもらっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置した上で、面会時や家族会などにはご意見を聞いている。職員には其の都度話をしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて意見を出しあっており、管理者は必要に応じて運営者に報告している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者や家族の方に不安感を与えないような職員を配置しており、優エットと協力しあい対応している。又必要な時は増員している。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動により混乱する事のないように配慮している。馴染みの職員にも会えるように配慮しケアをしている。	○	当施設は幸いにも離職する職員がなく馴染みの職員で対応している。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体の研修会への参加、ホーム内での勉強会、又関係施設と合同の勉強会を開催し参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加、他施設への訪問等、情報交換をしサービス向上へつながるよう努力している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	気軽に話し合える人間関係を築き、食事会や飲み会を設けるなどしてコミュニケーションを図っている。コミュニケーションは特に大事にしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状態は常に把握し、過程の事情等配慮してサポートを行い、個別に声を掛けるなど自身を持って働けるよう気配りをしている。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みから利用に至るまでの期間にお会いして本人とゆっくり話を聞かせてもらい、困っている事などを受け止めて任せてもらえるよう努めている。又、入所時は声掛けを密にして気持ちよく利用してもらえるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会や電話などで家族の意向をよく聞き、又ホームへも来て頂き、入居者さんの生活の様子を実際見て納得してもらおう努力をしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会にて状況を判断して、今何が一番必要かを考えて対応している。時には他施設の関係者の意見も参考にしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に十分な説明をした上で納得して頂き、可能な限り一緒に過ごし雰囲気などを感じてもらい利用に至るようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常生活を一緒に過ごし入居者の生活習慣、作法を教わり一緒に楽しんでいる。	○	野菜の下ごしらえをしながら野菜作り等の話を楽しく聞かせてもらい、色々教わっている。収穫も一緒にする。

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時ホーム内での生活状況や身体状況等を報告し、少しの時間でも家族と職員が一緒になって入居者さんに接している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には家族と本人がゆっくりと落ち着いて過ごせるよう配慮している。食事時の場合一緒に召し上がってもらえるよう声掛けしている。	○	食事時に家族が来所した場合はテーブルを同じにし、会話しながら食事介助にも参加してもらっている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職種、生活歴、生活環境、地域の事等を職員が把握して日常的に話題に出したり地域の方々に来所をして一緒に過ごしてもらいやすい機会を設けるよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	1人ひとりの特徴を把握し、仲間作りが出来るよう援助している。	○	入所者同士2～3人部屋に集まり談話される時は、楽しく過ごせるよう配慮している。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時には本人、家族、医師等と相談し納得のいく転居としている。以後も必要時には相談を受ける事もある。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりに合ったペースで意向を尊重し、本人の希望に添える支援が出来るよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前に得た情報、生活歴、職歴、家族構成を把握してそれに沿った生活が出来るように支援している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1人ひとりの心身状態を考慮し、その人に合った過ごし方、ゆっくり折り紙や読書をしたり、身体を動かして楽しむなどそれぞれの過ごし方をしている。又、四季折々お供えやお参りが出来るよう支援している。	○	お仏壇のある方には、お彼岸などのお供え物（手作りのおはぎ等）を供えて頂き、日頃のシキビの水換えなども声掛けをしている。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を考慮して、スタッフでミーティングを行った上で介護計画を検討している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた計画はもとより、変化に応じてスタッフと話し合い、現状に即した計画を作成するよう努力している。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、実践、気づき等は記録されていて、ケアプランに反映出来るよう努力している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の意向を尊重し可能な限り行うよう努力している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区部落長、消防団、駐在所、地域防火クラブ員、民生委員の方々とは日頃から交流を持って、当ホームの内容を説明して協力を得ている。	○	施設内防火訓練にも地域防火クラブの方が参加してくださっている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネジャーや福祉関係の方とは日頃から交流を持ち必要に応じて相談を行いサービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターとの連携は常にとり、意見交換を行い、相談したり一緒に検討したりしている。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医には定期的に月2～3回の診察を受けているが必要時には随時受診が出来る体制にあり、家族にはその都度報告をしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医師とは常に連携をとり、相談したり必要に応じて受診、治療が出来るよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内に看護師を配置しており、母体の病院勤務の看護師とも協力し健康管理が出来るように配慮している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と連絡をとりながら必要に応じて面会をし、退院に向けての準備をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には面会時に終末期を迎えた時の意向を聞き必要に応じて主治医も交えての話し合いを行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	常に主治医と連携を図り本人、家族の意向を尊重しながらスタッフ全員で支援が出来るよう取り組んでいる。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や関係者と十分話し合いをして混乱やダメージを受けることがないように配慮している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング等、機会毎に研修を行い、日々プライバシー保護の徹底に努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	1人ひとりに合った話し方、聞き方を工夫して自分の思いをいつでも言える様な雰囲気を保つよう努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人にあった生活リズムで接し、本人の希望を聞いてその人らしい暮らしができるよう支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の協力も得て、本人の希望する理美容に行っており、おしゃれや身だしなみも本人の希望を聞き支援している。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の季節の食材やメニューを心がけており、馴染みの食器でゆっくりと食事が出来る雰囲気作りをしている。可能な限り準備や片付けと一緒に楽しみながら出来るようにしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好を聞いて希望に沿えるよう努めている。タバコは禁煙としている。現在は喫煙者はいません。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンを熟知しておりさりげなく誘導する等、自尊心を傷つけないよう支援している。夜間は紙パンツ使用している方も日中は布パンツにしたりパットの汚染も軽減及び気持ちよく過ごせるように努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日出来る体制であり、本人の希望によりゆっくり入浴出来ている。現在は夜間の入浴は行っていません。季節にあわせゆず湯等をおこない、喜ばれている。	○	以前のアンケートでは夜間の入浴希望者はいなかったが、機会をみて聞き取りをする。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心してゆっくり眠ることが出来るよう配慮している。(光、音、温度調節等)		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人のレベルに合った楽しみ方、又役割もこなしている。折り紙、硬筆、編み物、切り紙、トランプ、ゲームや洗濯たたみ、食後の片付け等それぞれに合ったことをしている。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物外食時などは自分で支払いをするなどお金を大切に使う楽しんでいる。管理が出来ない方は職員が手伝っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い時には屋外散歩を日課としている。レベルに合わせて職員が付き添っている。日常的に買い物の支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望を聞き、道の駅、喫茶店、スーパー等へ行く支援を行い、家族と一緒にイベントにも参加している。昼食を兼ねてドライブをして買い物する等楽しんでいる。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞いを書くことや家族からの贈り物にはお礼の手紙を書くこと、電話をする等の支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に来居出来るよう玄関は開放しており、訪問者があれば一緒に過ごしてもらっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止については、職員は順次研修会へ参加し、正しく理解するよう努めている。基本的には身体拘束をしない介護を実施している。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけない介護をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は関わり過ぎず、離れ過ぎず、常に安全が確認出来るように見守りながら過ごしてもらるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の持ち物に対しては家族とも相談して危険な物は極力置かないようにしている。ホールや台所の危険性の物等は夜間は保管管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	家具や持ち物の配置にも気を配り、個人の身体レベルに応じた介護をするなど、事故防止には徹底して取り組み転倒、誤飲等の予防に努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網を作り、日々話し合っって落ち着いて対応出来るようにしている。	○	全職員が緊急時に適切な対応出来るよう研修を重ねていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練が生かせる事が出来るように日頃より意識するよう努める。地域の消防団、駐在所、地域防火クラブ員とは協力を得られるよう常に働きかけている。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	個人の能力身体状態など家族に報告をするとともにリスクについても説明を行っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃の体調を把握しており、変化早期発見が出来るよう努め、気付いた時には速やかに主治医と連絡を取り対応している。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテには薬の内容、作用等を記入しており、薬が変わった場合は連絡帳、申し送りにて徹底し、確認して服用介助を行っている。	○	副作用について話し合いを重ねていく。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行い、水分摂取量、繊維の多いものの摂取、又運動など出来るだけ薬を使わないよう努力をしている。		
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後ケアを行い、個人の口腔状態を把握している。歯科医訪問治療及び相談も取り入れている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の嗜好や摂取量に合わせて盛り付けをしたり、水分不足にならないよう工夫する等、状態に応じた支援をしている。母体のさくら病院の栄養士にも相談し、工夫している。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し全職員が認識しており、日々実行している。	○	ミーティング時に繰り返し勉強する機会をもつよう心がけている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具はホーム内で消毒を徹底して実施している。衛生的な食材管理を行い食中毒など防止に向け常に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は常に開放しており、季節の花を飾り、職員全体で考えた当ホーム独自の玄関まわりの工夫も凝らしている。いつでも気安く訪れてもらえるよう心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全館を職員と入居者さんとの共同作業による季節感、生活感を味わえる飾りつけをしており、居心地良く過ごしてもらえるよう配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に利用できるようソファや椅子を配置しており気ままに過ごさせている。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居に際し、馴染みの家具や衣類を持ち込ん でいただき、入居後は生花や写真などを飾り 安心できる雰囲気作りをしている。日頃手作 りされた作品を飾って喜ばれている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	入居者さんに合った温度調節や換気をこまめ に行っている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	適切な場所に手すり等を取り付けて安全を確 保できるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	職員は個人のレベルを把握しており、さりげ ないトイレ誘導や自室への入り口の目印など 混乱をしないよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	広い駐車場や雨天でも遊べるスペースを大い に生かしてボール遊びをしたり、ホームで 飼っている犬と遊んだり又、昼食を優エットの 入居者と一緒にして気分転換を図り楽しまれ る。野菜も作っており入居者さんは収穫して 喜ばれている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

仁淀和川を一望できる環境のもと、馴染みの関係で安心して穏やかに過ごしていただいています。一部の入居者さんだけでなく全員で外出をする機会を設け、又、1人1人の生活歴や趣味を生かし、日々楽しく過ごしていただいています。職員は皆仲良く、よい雰囲気の中、協力し合い、笑顔で入居者さんに接することが出来ていることを自負しています。